

船舶事故等調査報告書

平成21年7月30日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009横第46号	
事故等種類	衝突	
発生日時	平成20年12月22日 03時00分ごろ	
発生場所	東京湾アクアライン風の塔灯から真方位000° 1,000m付近 (概位 北緯35° 30.0′ 東経139° 50.0′)	
事故等調査の経過	平成21年2月10日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A ケミカルタンカー 第七 <sup>きょうえい</sup> 協栄丸、3,491トン 135981、神戸船舶株式会社 B ケミカルタンカー 第十 <sup>ゆうしょう</sup> 友昇丸、199トン 134554、有限会社友昇汽船	
乗組員等に関する情報	A 船長 三級海技士（航海） B 船長 五級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	A 船首フェアリーダーロープ止めに擦過傷 B 船尾部ハンドレール曲損、停泊用燃料タンク損傷	
事故等の経過	A船は、東京都羽田沖に錨泊中、B船は、神奈川県川崎人工島北方約0.3海里沖に錨泊中、強風により走錨し、平成20年12月22日03時00分ごろ、A船の船首とB船の船尾とが接触した。	
気象・海象	気象：天気 晴れ、風力 6、風向 南南西 海象：潮汐 下げ潮中央期	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	なし なし あり A船は、錨泊中、走錨して接近するB船に気付かず、警告信号を行わなかった可能性があると考えられる。 B船は、錨泊中に強風となった際、錨鎖を延ばさなかった可能性があると考えられる。
原因	本事故は、夜間、両船が錨泊中、A船が、走錨して接近するB船に気付かず、また、B船が、風が強くなった際に錨鎖を延ばさず、走錨したため、両船が衝突したことにより発生した可能性があると考えられる。	
備考	接触後、B船は機関を使用して錨泊位置を移動した。 A船はB船の接触到に気付かず、B船からの連絡があつて、初めて衝突を知った。	